

第8期第10回さいたま市公民館運営審議会 議事録

1 開催日時

平成29年5月26日(金) 午後1時00分から2時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 7階 講座室1・2

3 出席者名

〈委員：10名〉

- ① 坂西 友秀 委員長
- ② 青木 光美 委員
- ③ 青山 鉄兵 委員
- ④ 稲垣 克行 委員
- ⑤ 碓井 麻由美 委員
- ⑥ 加藤 正晴 委員
- ⑦ 久保木 央 委員
- ⑧ 黒岩 清 委員
- ⑨ 山崎 秀雄 委員
- ⑩ 山田 玲子 委員

〈拠点公民館職員：8名〉

- | | |
|----------------|-------|
| ① 西区 指扇公民館長 | 佐藤 芳正 |
| ② 北区 大砂土公民館長 | 山本 修一 |
| ③ 大宮区 桜木公民館長 | 森田 隆之 |
| ④ 桜区 田島公民館長 | 押田 龍彦 |
| ⑤ 浦和区 岸町公民館長 | 大嶋 真浪 |
| ⑥ 南区 文蔵公民館長 | 星野 務 |
| ⑦ 緑区 大古里公民館長 | 藤光 若人 |
| ⑧ 岩槻区 岩槻本丸公民館長 | 宮崎 通夫 |

〈事務局：6名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 戸張 豊一
- ② 副理事 野崎 隆史
- ③ 副館長 佐藤 軸治
- ④ 事業・企画係長 荻原 唯史
- ⑤ 事業・企画係主任 榎 進吾

⑥ 事業・企画係主事 松村 有香

4 欠席者名

〈委員：3名〉

- ① 佐伯 加寿美 副委員長
- ② 長谷部 美紀代 委員
- ③ 原 綾 委員

〈拠点公民館職員：2名〉

- ① 見沼区 大砂土東公民館長 吉田 勉
- ② 中央区 鈴谷公民館長 佐藤 賢一

〈事務局：1名〉

生涯学習総合センター

- ① 主幹兼管理係長 釜 浩美

5 議題

- (1) 「青少年・若者が魅力を感じ、かつ地域とつながるための公民館事業」について
- (2) 答申「青少年・若者が地域とつながる公民館事業について」の概要について

6 配布資料

- (1) 会議次第
- (2) 第8期第10回さいたま市公民館運営審議会名簿
- (3) 第8期第10回さいたま市公民館運営審議会席次表
- (4) 第8期第9回さいたま市公民館運営審議会議事録(案)
- (5) 第8期さいたま市公民館運営審議会 答申「青少年・若者が地域とつながる公民館事業について」の概要(案)(資料1)
- (6) 第8期公民館運営審議会 発言のまとめ(資料2)

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

審議冒頭、田中 徳代委員、松村 有香委員の退任報告の後、前回（第8期第9回さいたま市公民館運営審議会）の議事録について、承認を経て議事に入った。

坂西委員長	それでは、議題（1）「青少年・若者が魅力を感じ、かつ地域とつながるための公民館事業」について、ということで、事務局より説明をお願いします。
-------	---

議題（1）「青少年・若者が魅力を感じ、かつ地域とつながるための公民館事業」について、事務局より前回配布の「青少年・若者」のニーズ調査集計結果に基づき説明した。

坂西委員長	ありがとうございました。 前回の審議の続きという形で、各委員から意見・質問等ありましたらお願いします。
青木委員	前回の調査の結果を見させていただいた際に申し上げさせていただいたのですが、最初の、高校生が来ない・知らないという声を見ていくと、公民館の存在を見かけたり学校で行ったりしたことがあっても、少し他人の存在というか、自分事化されていないというか。知っているし、こんなことをやっているのだと思っても、スルーされてしまうのは、やはり自分には今まだ関係がない場所なのかなと思われてしまうからではないでしょうか。面白そうな場所だと思っても、自分は呼ばれていないのかなと取られてしまうところが少しあるのではないかと思います。それがもしかしたら情報の出し方というところなのかもしれないですが。それで言えば、この間事業報告であった、与野本町公民館の行ったような、エクセルだったり、以前に岸町公民館が行っていた広報の作り方のようなものや漫画家さんの入門というものは、もしかしたら自分に向けてのものなのかなということを感じられるようなタイトル付けであったり内容であったりというのは、一歩踏み出す、自分事化しやすいコンテンツだったのかなと思っています。その他にも、多くの高校生が言うように、「学校行事で行った」というのは、入門というか、最初のファーストコンタクトとしてはすごく大きいのかなと思います。一度も行ったことのない場所にいきなり申し込んで、というとやはりハードルが高いので、中学生、小学生である時期くらいに、学校行事を通じて1度、2度は行ったことがあるという経験をすることというのは、その後の行動にしても、「ああいうのをやっていたよね」、「行ったことがあるよね」という信頼感というか、安心感に繋がると思うので、やはりこの段階で1度なり2度なり、ボランティアという形でもいいと思うので、講座の参加者というよりは、もしかしたら主催者側に回ってもらって参加して足を運んでもらうということが、その後の行動には繋

	<p>がりやすいのかなと思ったので、そこは少し力を入れてもよいかもしれません。学校との連携ということもありますし、地域とつながる、その先、公民館に限らず地元のイベントなどに参加しやすくなる、という意味では、この学校との連携というのは、もしかしたら直接的な対象ではないのかもしれませんが、今後青少年と若者が地域とつながっていくためには外せないものなのかなと感じました。</p>
坂西委員長	<p>ありがとうございます。一つには第三者的に受け止めているというのが強くあるのではないかとということで、なるべくならば前回の例に出していた公民館がありましたが、高校生や高校生に限らずとも、若者が自分に引き付けて捉えられる企画をしていくということが必要ではというご意見で。もう一つには学校行事ということで、うまく組み込んでいくと。これは、今までの講座というのは公民館の側が企画をして、学校にお願いをすることが多いのでしょうか。それとも、学校の側から、「ぜひ公民館でやりたい」ということで入ってくる講座が多いのでしょうか。</p>
荻原事業・企画係長	<p>企画の段階で、ということによろしいでしょうか。</p>
坂西委員長	<p>はい。どちらの方が多いのでしょうか。</p>
久保木委員	<p>私の所属する青少年育成会でいうと、歌や社会福祉協議会のイベント等の行事に対して、学校は教育するという形で見えています。いわゆる、公民館側からの企画ではありません。</p>
坂西委員長	<p>それは、社会福祉協議会側からということですか。</p>
久保木委員	<p>そうですね。公民館を場所として、会場として使用するという事です。最近では高齢者向けの、たとえば会食会などに対して、学校側では積極的に参加するように、それがひとつのカリキュラムの中に織り込んであるという形での参加はありますね。これは毎年恒例でやっております。</p>
青木委員	<p>学校全体でなくても、部活単位でもよいので、企画段階から一緒にできると、より自分事化できて、その講座の集客まで気になってしょうがないというような段階にいけるのかなと思います。</p>
荻原事業・企画係長	<p>今、久保木委員からお話いただきましたように、公民館を貸出し場所として、あるいは社会福祉協議会等からお話をいただき、事業を行うことはあるのですが、公民館で企画する主催事業といたしましては、公民館側で考えることが多いということです。</p>
坂西委員長	<p>ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。</p>
稲垣委員	<p>小学校の教員の立場として申し上げますと、小学校と公民館の関係ですが、公民館側から毎月行事予定をいただいております、特にその中の、子どもたちが参加するような、たとえば夏休みの宿題に関わる内容の講座や子どもたちが好んでなにかをするような講座をいただいております。それを、本校の地域の公民館においては、学校を通してパンフレットを全員</p>

	<p>に配ることが出来るようにしていただいております。</p> <p>もう一つ、学校から公民館にお願いしているのは、地域調査です。地域の公共施設や、産業的なものを見学したりしますので、その中のひとつとして公民館に行かせていただいて、館長さんや職員さんからどんなことをしているのかというお話を聞く、ということをお体の学校では今行っているのではないかと思います。それから、保護者等の関係での公民館の活用の中で、子どもたちがそれに加わってなにかしていくというようなものがあります。他にも色々な学校での独自のものがありますので。私の聞いた話でいえば、公民館の作品等を学校の展示スペースに置き、作品を作った方が学校へ見に来る、というように交流を行っているという学校があります。</p>
坂西委員長	<p>ありがとうございます。教育活動の中に結構入っているということですね。</p>
稲垣委員	<p>そうですね。小学校は特に地域を知るという側面がありますので。</p>
坂西委員長	<p>ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。また議事が進んだところでも、気が付いたことがあれば適宜出していただければと思います。</p> <p>では、議題（１）については以上でよろしいでしょうか。続きまして、議題（２）答申「青少年・若者が地域とつながる公民館事業について」の概要についてにつきまして、事務局より説明をお願いします。</p>

議題（２）答申「青少年・若者が地域とつながる公民館事業について」の概要について、事務局より（資料１）及び（資料２）に基づき説明した。

坂西委員長	<p>ありがとうございました。（資料１）は、今後答申をまとめていく大きな枠組みになっていますが、全体をみて、いかがでしょうか。</p> <p>概要を鳥瞰的にみると、まず１点目には公民館の現状を踏まえ、２点目には調査を生かし、青少年・若者のニーズの現状を見た上で公民館の行く先を考えていくと。３点目には、さらに具体的に青少年・若者がどのような時間帯を希望していたり、どのような内容を望んでいたかということ、また、４点目には、青少年・若者が地域とつながるための展望や方策、という形でまとめていただいております。</p> <p>どの点からでも結構ですので、お気づきの点、ご意見・ご感想等ありましたらお願いします。</p> <p>大きな枠組みの作成ですので、柱としてこのような内容が入っていると良い、というご意見もぜひお願いします。</p>
青木委員	<p>今のところ、公民館の事業にどう人を集めるか、ということなので、どうしても公民館でどういうことをしているかということをお願いしていく、という話になると思うのですが、今の公民館は、自分でサークルに入っていたり、講座を申し込んでいたりしないと、行きづらく、ふらっと</p>

	<p>行く感じではありません。公民館へ行く用事がないと行けないような雰囲気があります。確か何回か前の審議会でも話題になっていたと思いますが、勉強スペースというのは厳しくても、敷地的な問題はありますが、フリースペースを少し充実する必要があると思います。これは若い人たちだけのことでなく、高齢の方でも、子育て中の方でも、ふらっと情報を得るために行く場所がもう少し評価されても良いのではないかと思います。そこにまずは足しげく通えるような雰囲気があり、ここでこんなことをやっているを知り、では講座に参加してみようかというつながりがあるとよいと思います。フリースペース事業のような、なにがなくとも、ふらっと寄っても良い雰囲気づくりに、もう少し力と時間をかけても良いのではないのでしょうか。</p> <p>以前尾間木公民館に訪問させていただいた際に、フリースペースがとても充実していて、本を読めるスペースなどがありました。もちろん尾間木公民館はそのようなためにも施設を作って、ということもあると思うので、すべての公民館ができるとは思いませんが、もう少し資料のラックのところを充実させたりできるのではないかと思います。みんなが何も目的がなくとも行っても良いというような情報発信の場所にできると、公民館を訪れる層も広がり、自分はこの地域の一員であるから行っても良いのだという場にできると思います。そこからまたなにか新しい動きが出てくると面白いと思います。フリースペースの存在というのを認めていっただけでいいのではないかと思います。</p>
坂西委員長	事務局からいかがでしょうか。
荻原事業・企画係長	ただいまの青木委員からの意見につきましては、まずは青少年・若者が事業の参加者としてではなく、公民館に訪れやすくなる雰囲気づくりということですね。
青木委員	<p>はい。まずその一歩があって、すべての事業が生きてくるのかなと思います。訪れやすさであったり、行って良いというイメージをどうしたら持ってもらえるのかと思っています。事業はとても良いと思うのですが、まずそこに至っていない人たちに、どうしたら公民館を身近に感じてもらえるのかなと思った時に、たとえば公民館ではない公共施設で挙げると、図書館であれば一人でふらっと行ける雰囲気があると思います。その差を考えると、やはりそれは一人で行ってもいい気楽さや、勝手に感じている敷居の高さ感の差であると思います。団体でないと行ってはいけないのではないかとといったような思い込みのところをなくしていけると、講座を申し込む時は一人で申し込む場合が多いと思うので、講座までのつながりがスムーズになるのではないかと思います。そしてきっとその先に団体をつくってサークル活動をするということが見えてくると思うので、まずは一人でも行って良い雰囲気づくりというところをどうしていけば、事業が</p>

	より響くようになるのかなというところを考えていたのですが。
碓井委員	公民館まつりへ行き、公民館によってはフリースペースがなかったりするので、フリースペースがあって、お茶くらいは飲めたり、ゆっくり時間を過ごして、そこに配置されているチラシを見たり、訪れているのは地元の人なので、地域の人と話してみたりということができる場所があったら良いと感じたことがあります。ですので、先ほどのフリースペースのお話の意図は理解できる部分があります。きっかけとして公民館のフリースペースに居心地の良さを感じて、通っていただけたら、ということですよ。
山田委員	私は今、古民家を使ったコミュニティスペースに小さなライブラリーをつくって、その場所に集まってきた人たちでなにかするというような活動をしているのですが、公民館をいくつか訪問させていただいたときに、子ども文庫があるような公民館や、本棚があるような公民館があったと思うのですが、そのような公民館の地域の子どもたちには、毎週そこへ通ってくるというような習慣ができてきているのだと思います。そうすると小さい頃から公民館がどこにあって、どんな場所であるかを知っていると思います。本しか見ないかもしれないのですが、ここに本のある場所があるということはわかると思うので、そのような場所は必要だと思います。
坂西委員長	そのような場所をつくることに制限はあるのでしょうか。
荻原事業・企画係長	各公民館の設備的な問題というものはあるかと思います。
久保木委員	以前にも話題に出たのですが、フリーに行くことのできる居場所というのは、既存の公民館という設備を考えるとおそろくないと思います。図書室の蔵書の中身という児童向けのものがほとんどで、もうひとつには文学作品です。そうしますと、私の地区の公民館では、子どもたちが児童図書を見るために公民館を利用しているかという、していないのではないかと。そして成人はほとんど見かけず、公民館で行事を行う際の楽屋のような使用をされています。図書室の普及率というのはよく話題になりますが、利用率というデータがあまりないというお話が以前にもありましたよね。少し乱暴な言い方ではありますが、スペースづくりということであれば図書室の活用ということが考えられるのではないかと思います。図書室は本当に利用されているのでしょうか。
荻原事業・企画係長	市内には公民館とは別に図書館がございます。さいたま市においては児童書等の蔵書につきましても、各図書館において力をいれておりますので、そのあたりの兼ね合いということもあるかと思います。
青木委員	公民館の図書室の蔵書の取り揃え方の問題もあるかもしれませんね。私の知人がこの間公民館へ大人の絵本の会の講師として行ってきたそうなのですが、ニーズと蔵書があっていれば良いと思います。蔵書が少なくても、たとえばこだわって面白い品揃いであれば、もしかしたらそういった

	<p>ニーズが出てくるかもしれません。</p> <p>私自身子どもの頃、植竹公民館をよく利用させていただいていたのですが、フリースペースと本のコーナーが充実していて、学校帰りによく遊びに行っていました。その地域には図書館というものが近くなかったので、公民館の図書スペースのニーズが高かったと思います。近くの公共施設とのバランスが大きいですね。ですので、地域ごとに図書スペースの取り方は異なって良いと思います。</p>
加藤委員	<p>(資料1)の概要を拝見して、1の公民館をとりまく背景と課題というのは的を射ていると思います。今若者は、人とのつながりがあまりないためにこのようなことが起こっているということをよく表わせていると思いました。</p> <p>また、2の公民館の現状で、青少年が活躍する場が少ないということですが、その事業の現状を踏まえれば、子育て支援や高齢者支援が事業の中心というのは、公民館がその対象者向けに講座を組んでいるということでしょうか。公民館が子育て中の親や高齢者が好むような事業を多く組んだことで青少年向けの事業がない、ということを行っているわけではないのですよね。つまり、誰か音頭をとるリーダーを育成することで青少年が魅力を感じる活動のもとになるのではないかと私は考えます。リーダーをどう探すかというのは、現在公民館を利用している高齢者の中にもリーダーというものがいて、それを青少年のほうにも活用できるものはないかと考えています。地域の高齢者の中には子どもたちが喜ぶようなものが得意であったり、そういったものに取り組んでいたりする人もいます。その良い例は、さいたま市の小学校で行っているチャレンジスクールというものです。得意なものを持っている高齢者は結構地域の中にもいると思うので、その受け継ぎによって今度は就労をする青少年から大学生・高校生へ、またそこから子どもたちへという循環が生まれていけば良いのではないかと思います。魅力あるものは地域の中から生まれてくるものである、ということですね。</p>
久保木委員	<p>18歳から39歳くらいのこの世代の空白というのは自治会も同じような状況で、なかなかこちらを向いてくれないという現状があります。昔は青年団や青年会という組織がまとめる役割をはたしていたのですね。しかし今現在はそれがない。たとえば今はソフトボールチームなどがあって、この世代の人たちも入ってきています。子どもがいる世帯というのはそういったものを通じてつながりはあるのですが、この世代のそうでない人たちのグループを作ろうかなと考えているところなのです。(資料1)の1にあるように、青少年・若者が地域とつながりを持つことが目的で、そのために公民館が機能するためにはどうしたらよいのかということだと思っておりますが、色々な講座や講習会の企画をするということとは別に、自治会との連携の仕組みを公民館が作っていくという方法もあるのでは</p>

	ないかと思えます。
加藤委員	今スポーツという話でしたが、何年か後にオリンピックが開催されるということも考えると、小学生・中学生ないしは高校生を対象にして、正規のスポーツルールの講習会を取り入れることも必要だと思えます。公民館もなにかそれに関して対応できることはないかな、と思えます。
青山委員	<p>(資料1) 概要の1について、青少年・若者側からのメリットが見えにくいところがあり、全国的にそうなのですが、「青少年・若者が来てくなくて困る」ということは、こちら側の事情であって、青少年・若者は来たいわけでもないという前提がまずあって。地域のメリットがある、世代が抜けている、ということはもちろんあるのですが、それは若者側からの問題ではない気がします。文章の書き方の問題ということもあるかもしれませんが、若者が「こういうことがあるといいな」ということがあってから、(資料1) の2以降に入っていけると良いと思えます。公民館に若者が来なくて困る話だけになってしまわないように気を付けなければいけないと思えます。平均すればご年配の方々より若者の参加度が下がることは当然の状況の中で、空洞化させない、地域のためにも、ということはもちろん理解しているところではありますので、若者の彼らにもメリットがあって、彼らの課題に公民館が関わっていくという視点をもっとあれば良いと思えます。</p> <p>また、答申とは別の話で、若者が利用者としての参加ということを超えて運営側に回ることや、ボランティアとして関わること、たとえばこの公民館運営審議会にももっと若者をたくさん入れるというようなことも含めて、少し若者の声が届く仕組みを作るようなことも、より大きな観点からは必要なのかなと思いました。</p>
碓井委員	<p>前回頂いた資料の中で、若者は社会参加やボランティアに関することには関心があると出ていて、ただ関心はあるけれども、その一步をどう踏み出していいのかわからないということがあるようなのです。また、(資料1) の4 (2) の「地域交流を深めるイベントへの参画」、というところで気になったのは、私は音楽の講師で幼稚園へ行っていたことがあるのですが、幼稚園の中の発表会でも、大きなホールでの発表会でも、身内は来ても良いし、近所の人でも来て良い、だけれども不審者が来られては困る、ということがあるので、「誰でも来てください」というわけにはいかないということがあります。ただ、公民館は開かれた場所なので、たとえば公民館まつりの発表ステージの30分空いている時間が勿体ないと思うので、その際に同じエリアの保育園・幼稚園であったり小学生であったり、学童保育であったり、中学・高校の発表の時間があっても良いのではないかと思います。この学校にはこういった子たちがいるのだな、と、その程度の認識ではあるかもしれませんが、つながりを感じられるところではあると</p>

	<p>思います。</p> <p>たとえば近所に幼稚園があって関心があるので行ってみます、となると不審者に間違われてしまうということがあるかもしれないですし、近頃はカルチャースクールでスイミングスクールがあるところがありますが、子どもの親がビデオを撮っているのと、外部から撮っているのでは異なり、いわゆる不審者が撮っていることもあるのでビデオ撮影が禁止になったということがありました。横にはつながりがあっても、縦につながるものが今難しい社会だと私は感じています。たとえば高齢者のボランティアでは、高齢者は若い人が来ると元気になったり明るい気持ちになるということがあるので、若い人には来てもらいたいけれども、中学生などは塾や勉強、部活で忙しいだろうからという前提で、ボランティアの声掛けをしないそうです。来ていただければそれはそれで良いのだけれど、その前に日本人は遠慮がちな美德があり、それがかえって世代間交流ができない状態になっているのだと思います。公民館が利用団体の発表の場になっていることは分かりますが、公民館では「つなげる」ということが一番できると思っているのも、世代をつなげるということをもっと地域ぐるみで同じエリアのものとして交流を深めるという前提で行うと、より発展的で良いのではないかと思います。</p> <p>なので、先ほど主体的参加で実行委員会まで出ていただくようなことが期待できればという話がありましたが、そこまではいかなくとも、公民館まつりの際に地元の保育園の生徒が来るだけでも、関わりが出来て、そのことをきっかけに、「公民館に行ったことがあるから」ということで公民館を身近に感じて、もう少し成長した時に公民館に来るということも期待できるのではないかと思います。</p> <p>さらに、私自身音楽団体をやっているのですが、発表をするということだけでなく、発表を受け止める人がいて、みんなで認めて、共有して、それが毎年つながっていくと、その地域の文化活動がさらに活性化するのではないかと思います。今回の概要では年間を通して講座が数も多く、公民館の主体となっていますが、公民館まつりのほうが足を運ぶ第一歩というきっかけにはなりやすいのではないかと思います。</p>
山崎委員	<p>社会福祉協議会として、ボランティア講座を毎年行っていますが、昨年のものを調べたところ、14講座延べ282人の人たちが講座を受講しています。この時に、アンケートを行うことや講座を行うことが目的になってしまうのではなくて、ボランティア講座の受講者は、やはりやるからにはそれを活用したい、活躍したいという気持ちを持って受講していますので、そこをつなげなければならないと思います。講座を行うことが目的になってしまって、講座が終わったら名簿を作って配り、使いたければ見に来てください、ということではなくて、講座を行う前からその講座がどのようなボランティアの方向で、どんなニーズに応えるために行うのだとい</p>

うことをよく打ち合わせてから始めるということ、講座を行う前からどのような目的にして行うかということ徹底しておく必要があります。

今回（資料1）の4（2）のように、青少年・若者が地域とつながるための事業の中で、「ボランティアを必要とする地域団体等と連携したボランティア養成講座」を行うということは大変ありがたいのですが、以前、災害ボランティアの養成講座を行って、500人分の名簿を活用してください、と社会福祉協議会へ持ってこられたことがありましたが、災害ボランティアといっても、そのボランティアがどういった活躍をすべきかということを考えずに名簿を作ってしまうために活用することが出来ませんでした。ですから、このような講座を行う際には、どういった活躍をしていただく方向のボランティア講座を行うかを事前に社会福祉協議会や地区社会福祉協議会や地域の自治会や障がい者福祉施設と話し合いの上、始めると非常に良い講座になるのではないかと思います。

今日持参した資料で、最新号のものではないのですが、「夏のボランティア体験情報」というものがありまして、夏休みに子どもを対象として行う、すごく評判が良いもので、昨年のもになります。5、6か所の公民館でも行っていただいています。たとえばこちらの周辺地域でいえば、桜木公民館で「大宮フォークダンス愛好会」が小学5年生以上の子どもを対象に、アイマスクを着用して踊り、視覚障がいの体験をするというボランティアを行っています。その他にも、高齢者を対象にしたものなど、非常にいいことをやっていると思いますし人気もありますので、こういったものを広げ、続けていくことは良いと思います。しかしこういったものを公民館自体が考えていくということには、各ボランティアに専門性があってそれぞれが異なるという点でも限界があると思いますので、これは、地区社会福祉協議会を通して、地域で、会場を公民館として行うという方向が良いと思います。今ボランティア講座がこれだけニーズがあるということであればこういったものをより広げていくことが出来ると思います。

また、併せて、公民館は講座を行うだけでなく地域と連携をとっていく必要があると思います。連携をとるといっても、なかなか地域に入っていくこと、公民館に入っていくことは、その分野によって異なるので難しいこともあると思いますが、たとえば、「この公民館は福祉に力を入れている」、「この公民館はスポーツに力を入れている」、というように専門性によって分類をして、市内や区内で自分の専門性に近い公民館に行くということがあっても良いのではないかと思います。そうでないと、すべての分野を行おうとすることは公民館では対応しきれないと思います。ボランティア講座の一番の問題点は、自分がやりたいボランティアと、ニーズが一致しないことですので、たとえば講座をやるということだけではなくて、ボランティア養成講座を終えた人に、この地域でこのようなボランティアを募集していますということを、公民館が情報発信の場となっていくとい

	<p>うことです。社会福祉協議会もそのような情報を常に発信しているつもりですが限界があります。このようなボランティア講座を終えた人は、公民館に来れば今その区内でのボランティアニーズを把握できるという仕組みがあれば、講座を終えた後も公民館とのつながりや接点を残しておくことが出来ると思います。公民館でそういった情報発信の機能を持たせなければ、講座を受けて終わってしまうと思います。ですから、今回の概要のどこかに情報発信の方向も書き込んでいただけたらと思います。</p>
<p>坂西委員長</p>	<p>様々な観点からの意見を出していただきました。骨組み自体を変えていく、ということではなかったかと思います。</p> <p>1つにはフリースペースについて、これは構造や建物のスペースの問題ということもありますので、新しい提言ということになるかと思いますが、見るべき視点があると思います。</p> <p>また、ボランティアについても、様々な目的があり、ただ開けば良いということにはならないと思いますので、これからより具体的に社会で実用的に活かすことができるような視点が必要だと思いました。</p> <p>また、ここでは話題に上りませんでした。国際化していくということは確実にあるので、公民館で取り入れるかどうかは別として、全体的な社会の流れとしてそういった段階にあるということを経験者の視点の中に入れておかなければならないだろうと思います。</p> <p>また、先ほどの話として、若者にとってのメリットは何なのかということです。我々はどうしたら若者が集まるかということを考える課題を課されていますが、若者は忙しく勉強や仕事もあるので、5、6割も若者が集まるということを期待することは難しいと思いますが、彼らにとってどのようなメリットがあるかということの重要性はすごく大きいと思います。たとえばフィンランドですと若者の問題はやはり大きいですが、簡単な軽食を作れるような場所、いわゆるフリースペースがあります。これに関しては国の違いがありますのでどちらが良いという話ではありませんが、それを担当しているのはすべて若者なのです。日本にそういった制度があるかどうかは分かりませんが、これは、若者指導員のような資格が免許としてあります。それを議会に代表として地域から必ず若者を出すことになっていて、それも若者指導員といったものと絡んだ形でのシステムになっているようです。あまり枠にとらわれなくて、社会教育の枠の中に公民館はあるわけですので、学校教育ではない広さ・自由さというものがあるのも良いのかなと思いました。それとの絡みで、学校教育自体が変化してきていますので、直接体験や伝統的な年配世代の地域の中で生活してきた生活技術や生活の仕方はまるっきり変わってきていますし、ここ10年ほどのIT化で人工知能なども出てきますので、またがらっと変わると思うのです。そうなった時に、私たちが持っている、もともと手を使ったり耳を使ったり色々なものを使ってやってきたことというのが、恐ろしく貧困化</p>

	<p>していくというか。学校教育もタブレット化してきますので、それは考えなければならないところで、それを補完する、体を使う場が学校の中でないので、地域で地域の色々な人から学んでいく機会や接する機会を、公民館で集約的に担うことは良いと思います。その点公民館は安心して利用でき、公民館に来れば色々な方にお会いできるとなると、現代的な教育としての意味は大きくなっていると私は思います。ただ、学校教育の枠であまり縛り付けて、そこに行くとは評価になる、点数になる、ということには少し注意しなければならないと思いますが。そういった意味で、公民館の現代的な意味は、やはり学校教育との関係でもあるのではないかと思います。そういったことを答申のどこかで触れることができればと思います。また、若者の視点から、若者にとってのメリットは何なのだという事は、どこかでやはり触れておかないとならないと思います。</p> <p>そして、地域によって公民館は特徴が異なり、それがまさに公民館であると思いますので、そこを押しなべてすべて同じような取組をすれば良いという風に映ってしまうと問題だと感じました。それぞれの地域に独特の活かし方があると思いますので、それを考慮しながら地域の中で生きていく公民館というものが答申として出ていけば良いとみなさんの意見を伺いながら強く感じました。たしかに、保育園などに参加してもらおうと敷居の高さはなくなると思いますね。</p> <p>そもそも、若い人がなぜ公民館を利用しないのでしょうか。なにか公民館に行きにくい理由などは調査で分かったのでしょうか。</p>
青木委員	調査の中にイメージに関する項目が少しありますが、公民館の事がよく分からないということでしょうかね。
坂西委員長	行きたくないということではなくて。
久保木委員	行きたくないというより、若者にとっては「公民館ってなに？」ということなのでしょうね。
青木委員	<p>利用者の年齢層が自分とは異なると感じるということもあるのではないのでしょうか。</p> <p>それから1点よろしいでしょうか。各公民館で独自性を出していくということと、若者にとってのメリットであったり期待感をどう生むかというところで、若者に何を発信するかが重要であると思います。公民館を訪れて、見ただけでこの公民館だなと分かるような独自性や個性があっても良いと思います。そのときに先ほどの話のフリースペースで、たとえば近くに本屋や図書館が少ない地域であるから蔵書を取り揃えている、だとか、周りに高齢者福祉施設が多い地域であるから福祉ボランティアの人材に関する情報を豊富に発信する、といったように、公民館そのものの独自性をもっと出していても良いのではないかと思います。公民館には地域の情報がチラシ等で万遍なく揃えられていますが、公民館自体のメッセージ</p>

	<p>性を出しても良いと思います。今現在も公民館報等で個性は出せているとは思いますが、公民館報は、全員が目にすることが出来るわけではない環境にある地域もあると思うので、少なくとも公民館に訪れてくださった市民の方に対しては、公民館からのメッセージがダイレクトに伝わるような個性のある掲示等の工夫があると面白いと思います。</p> <p>そして、先ほどのボランティアの話に関連して、私は以前朝霞市の社会福祉協議会でボランティアの担当をしております、夏になると高校生からたくさん問合せがありました。よく話を聞いてみるとやはり学校の点数になるというのが下心としてはあるようでしたが、実際ボランティアへ行ってみたらそこで社会が広がって、自分の好きなことや進みたい道が見つかったかもしれないと言ってきてくれた高校生もいて。最初の入り口はそれこそ下心のメリットで来たということであっても、それは必ずしも悪いことではないのではないかと思います。一步踏み出したことで世界が広がって、その先につながることもあるので、高校生、あるいはその上の世代に、なにかメリットとして証明書等が出るということがあったとしても、悪くはないと思っています。魅力ある講座に参加することがメリットであるということももちろんあると思うのですが、たとえば主催者側に入ってもらうことが第一歩になるのであれば、そこに対してどんなメリットがあるかということが分かるようなPRがあると、はじめの関心度というものも上がるのではないかと思います。</p>
山崎委員	<p>今みなさまにボランティアに関する話を多くしていただきましたが、ボランティアというとすぐに福祉につながってしまいがちですが、若者が取り組もうとするようなボランティアというと福祉だけなのではないでしょうか。たとえば災害や環境、教育、スポーツなど、ボランティアって広いですね。そういうところのニーズというのは資料だけでは読めないのですがいかがでしょう。先ほどの若者側からのメリットという話で、若者が、「自分たちにはこんなことが出来るのではないか」と思うボランティアがあるのだとすると、それはどのようなものなのでしょう。若い人にとってボランティアというのはどういうイメージがあるのでしょうか。</p>
青山委員	<p>私が普段接しているのは大学生や高校生が多いのですが、ボランティアというとすぐ福祉、というようなイメージは以前に比べれば随分と緩んでいると思います。特に私の周りには学校教諭を目指す生徒が多いということもありますが、子どもと関わるようなボランティアがしたいという生徒や、数年前は被災地に関わることに興味が高いようでした。若者たちのボランティア＝福祉というイメージはそこまで高くはないのではないかと感じています。ただ一方では、手話をやらなければ、点字をやらなければ、車いすを押さなければ、といった福祉的イメージがまだ根強いところもあるのかもしれないとは思いますが。</p>

山崎委員	<p>ぜひ概要のボランティアというところには福祉だけでなく色々な分野を入れておいてもらいたいと思います。特にスポーツや教育といったものには若い人たちの力がすごく必要だと思いますので、ただボランティア講座を開くだけでなく、そういったボランティアには若い人たちの力が必要なのだというところを前面に出していくことも重要だと思います。そういったアピールも、ひとつの力になるかと思います。</p>
青山委員	<p>社会福祉協議会は公共的な場の中で支援をすることが多いので、支援する側は福祉に寄っているのかもしれませんが、生涯学習の側のボランティアといったようなことも言われて久しいですので、その双方が一緒にできることがあると良いかもしれませんね。</p> <p>また、補足をさせていただきますと、先ほどメリットに関する話を多くさせていただきましたが、今見えている彼らのニーズだけではないと思うので、若者のやりたいことに合わせようというよりは、たとえば「若者にもこんな問題がある」ということや「若者はこういった生きづらさを抱えている」といったこと、あるいは「学校はこう変わっていく」といったように、色々なことの中で公民館は若者に対してこういったアプローチが出来る、ということを示すことが出来ればと思います。そういったこともあっても良いとは思いますが、直接個人のメリットに合わせるべき、という趣旨の発言ではなく、より広げた形でのメリットという意味の提案であったことを補足させていただきます。</p>
坂西委員長	<p>ありがとうございました。本日も様々な意見を出していただきましたが、次回の審議会では、本日のご意見を加味しながら、答申の案について、報告させていただくことといたしますので、よろしく願いいたします。</p> <p>これで議題は終わりますが、そのほかになにかございますか。事務局からなにかありますでしょうか。</p>

事務局より、さいたま市公民館運営審議会から他の会議等に推薦している委員について、さいたま市人権教育推進協議会の任期満了に伴い、平成29年度～30年度の委員の推薦依頼があった旨を説明し、引き続き加藤委員をさいたま市人権教育推進協議会に推薦した旨を報告した。

坂西委員長	<p>ありがとうございました。事務局から、人権教育推進協議会に加藤委員が推薦された旨報告がありました。加藤委員におかれましては、よろしく願います。他にはいかがでしょうか。それでは、これをもちまして本日の議事はすべて終了いたしました。委員のみなさまには活発な審議をしていただきました。円滑な議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。進行を事務局にお返ししたいと思います。</p>
-------	--

事務局より、次回は、7月28日（金）午後1時より生涯学習総合センター7階講座室

1・2において開催することを確認した。

1 1 閉会